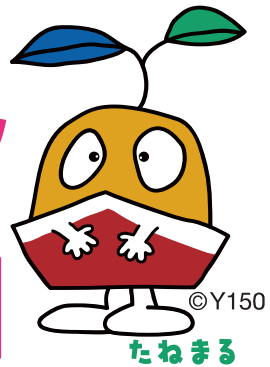


創発カワラバン



『Y150』ヒルサイドは2009年7月4日(土)～9月27日(日)開催!
会場:横浜動物の森公園(ズーラシア未整備地区) 主催:(財)横浜開港150周年協会

創発支援
プログラム
前半

vol.05



まだ「終わり」じゃない。ココからが本当の「始まり」です。

最終回は現実的な出展をイメージして、具体的に考えるプログラムです。これでいったん終了となるからか、話し合いは熱く、深いものになりました。

もっと交流したい! まだまだ足りない!

木工室での話し合いでは、出展のスタイルがすでに明確な「クラフトを中心に自己表現をしたい人」、「創発劇場利用希望者」、逆に「メッセージを伝える具体的な方法があいまいな人」、さらに「参加者同士の情報交換や連携に関心がある人」といったテーマごとにグループとなつての話し合いです。「環境や福祉といったジャンルごとに集まって話をすると、ジャンルを超えた人とつながって何かやりたいという場合に

は自分の方向性とマッチしている人を見つけにくい。だから、もっと多くの人と交流したいと、みんな思っている」とは木工室のサポートスタッフ尾崎太郎さん。これは木工室に限らず、共通の悩みとして各教室から出てきた課題でした。

現実的になってきた 来年に向けての言葉

プログラムを終了後は、こんな感想が聞かれました。「アートを通じたワークショップを計画しているが、一人の発想で凝り固まっていたときは漠然としていたけど、具体的にまとめていくための意見がたくさん聞けた」、「少しずつプロセスを踏んで整理することで形にするためのノウハウが勉強になった」、「できるか半信半疑だ

ったけど、たくさんの人と関わることでできるかも、と可能性がふくらんできた」。

プログラムのサポートをしてきた横浜市開港150周年事業本部の松坂さんは「市民がやりたいことを実現するための場づくりをお手伝いしてきたのですが、これからは本当に楽しみになってきました」と語ってくれました。

寸暇を惜しんで、やりたいことについての思いの丈を話し、それに聞き入る。ココロとココロのぶつかり合いは、来年みなさんが手がける「出展」という形となって昇華されていくのでしょうか。

(写真撮影:村上友重)



情報交流ミーティングに懇親会。熱気は続くよ、どこまでも。

今回はあくまでも前半プログラムの最終回。実際の出展まで、このあともまだまだ続くわけですが、出展を現実的に考えている人たちが一堂に会する機会はとりあえずこれが最後ということになるからか、第6回目のプログラムとしては、総まとめという内容になっているため、休憩時間やプログラムの終了後の方がずっと盛り上がりました。

「屋外の利用、出展」、「創発劇場の利用、出展」、「旧若葉台西中の活用」、「創発メンバー間の情報共有」、「25歳以下のメンバー」、「プロジェクトの具体



的な相談」といった具合にテーマ別に分かれての話し合いは18時までの予定だったのが、19時近くまで白熱しているところもありました。

また、今後は4月5月に予定しているフォローアップで、相談会やアイデアを拡げるワークショップ、スタディツアーなどが予定されています。これまでの体験を生かし、さらに向上させるためにも必要なプログラムとなってきそうです。



100人超えた懇親会 若葉台の地酒も登場!

さて、最後は懇親会です。予定より遅れてのスタートとなりましたが、会場となった若葉台のしらかし集会所には話し合いを終えたメンバー、事務局スタッフやチーフファシリテーター、出展アドバイザーたちが続々と集結。なんと100人



を超える人々が集まりました。自治会の有志の方からは、若葉台の地酒が3種類提供されて、ほろ酔い加減ながらも話し合いがまだまだ続きます。

懇親会については、事務局スタッフからはこんな言葉が聞かれました。

「この日の懇親会は、プログラム参加者有志と自治会の協力によって計画されたものですが、事務局スタッフが介入せず、メンバー有志が助け合いながら、会場作り、運営などをやり、これだけたくさんの方が集まった。創発からはじまった共同の結果が、ここにもひとつの形となって表れたとことがうれしいです」。

懇親会を企画したみなさん、本当にお疲れさまでした!



連載「コ+コ=∞」

堀川さんは県外からの参加者。毎回、プログラムに参加しての感想、出展の手応えについてうかがってみました。

東京都江東区から1時間半もかけて通ってきた堀川さん。毎回楽しかったので、遠いとは感じなかったそうです。

「今まで横浜との直接の関わりがなかったのが、関わりがほしくて参加しました。が、年齢層が幅広いことにビックリ。多く

全6回のプログラムに参加して

堀川 誠さん

の方々、地元に対する愛着を感じたことも強く印象に残りました」

堀川さんの出展計画はホテルの鑑賞会。ホテルの住めるきれいな小川が会場になるのですが、会場探しからすでに難問が始まっています。

「でも、ズーラシアの中に川があるので、ここでできないかなーと。同じくズーラ

シアの中でやりたいことがあるという人がいたので、その人と一緒に交渉して、計画をなんとか実行させたいですよ」

仲間がいれば難問も貴重な体験になりそうですね。



編集・発行元：ヒルサイド市民参加事務局（2008年4月5日発行）

お問い合わせ

TEL:045-662-6482（月～金※祝日の場合を除く：10時～17時）（財）横浜開港150周年協会「ヒルサイド市民参加」事務局

E-mail:hill-member@yokohama150.jp ホームページ: <http://hill.yokohama150.jp>

本紙の内容の一部または全部を無断で複製（コピー）することは、法律で定められた場合を除き、発行元の権利の侵害になります。

